

冬の一日を 雑木林 で遊ぶ

■12月1日 都心に一番近い「里山」の一日体験イベント～ 市と環境市民懇談会の共催で開催。



←応募してくださった市民の方と環境市民懇談会のメンバーが祇園寺に集合



↑地面に昔の地図を広げ、佐須一帯が田んぼだったようすをメンバーが説明



佐須辺りを歩き、収穫の終わった「田んぼの学校」を見学。地元農家の方にも数十年前の田んぼのようすを聞く



←歩いた後は調布産の新米と野菜鍋で！

木漏れ日の中でお昼

「ちゅうふの昔話」を聞く



■12月16日 入間・樹林の会

入間樹林の中でお楽しみ会
緑と公園課から今後の公園整備の説明を聞く



■12月8日 田んぼの学校

収穫を終え、キャンプ場で堆肥を作るための落ち葉を集める



簡単な炭焼き遊びもした。



サスティナブル (持続可能) な里・佐須の里を訪ねて (1)

1 面紹介の 12/1 のイベントで歩いた佐須の昔を、案内役の小林さんにまとめていただきました。



里人の心をつなぐ森

佐須 2・4・5 丁目、深大寺南町 1・2 丁目あたりには、「里」と呼ばれるにふさわしい優しい風景がある。

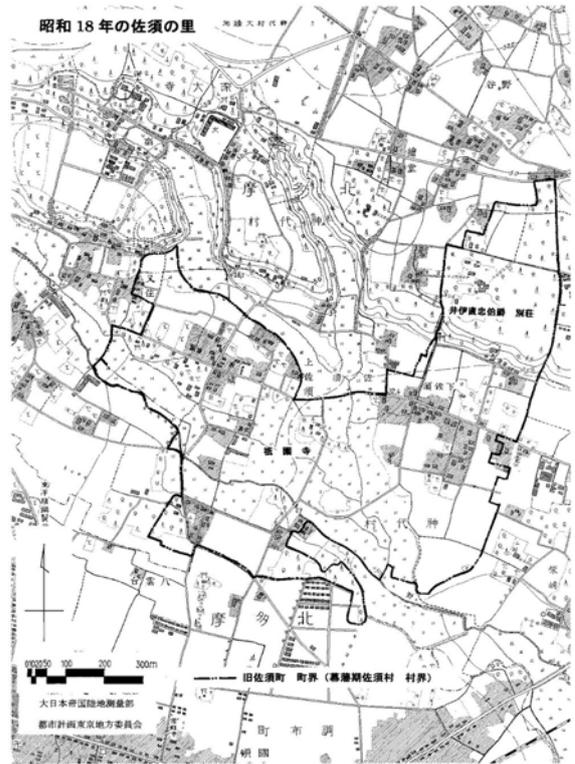
都市化以前の佐須の里の大地の大部分は、畑と水田であった。特に水田は旧佐須村の村域の 3 割近くにのぼり、見通しの利く伸びやかな風景が

広がっていた。(昭和 18 年陸地測量部地図) この風景は家康が天正 19 年(1591 年)に佐須の土地を伊賀者に給地した以前から変わっていないようだ。また江戸末期の名所図会に描かれた絵も証明している。そしてこれらの古図や絵を見て印象的なのは、二つの森である。一つは村の中心にある祇園寺の叢林、もう一つは、国分寺崖線上の粕江入道屋敷跡という伝説のある、おそらく昔は佐須村の「入会林」的性格があったであろう森(現在は昇華学園や神中付近)の存在だ。

西欧の村や街は、教会の教えや市庁舎等での討議などが人々を実質的に結び付け、それらの施設の前の広場が象徴や場として重要であった。日本の国にはそのような強力な広場はない。その代わり村の中で人々が共通して眺められる、四季や時の移ろいを感じさせもする「杜」や離れた「山」など、植物や大地の風景が、人と自然、農耕生活と自然、

そして緩やかに人と人をも結びつけていたと言われる。佐須の里の二つの森の位置や村人が見ていたであろう景色を想像すると、この森は数百年に亘り里人の心の結び目であり続けたはずである。佐須の里の環境と社会を持続させてきた大切な二つの森とその風景の構造はこの里の代表的な遺産である。

(小林冬樹)



昭和 18 年の佐須の里の地図

◆入間・樹林の会

12/16 (日) 恒例のお楽しみ会を樹林地内で開催しました。(1 面写真参照) 少し風が吹いていましたが、樹林地内の落ち葉だめ付近はおだやかでした。はじめに整備工事について緑と公園課職員から説明をうけ、次にトン汁とお餅・マシュマロ・あじの開き・漬物・ぎんなんなど持ち寄った品を火にあぶって食べながら NTT 住宅跡地の要望書・会則案を検討しました。いつもは、落ち葉の布団が温かいのですが、今年は前夜の雨のせいか濡れ落ち葉からの冷気と陽がささないせいかすぐに冷えが襲いました。じっとしていると、しんと冷えてきます。熱燗・ホットワインでカラダを温めながら参加者 9 人でにぎやかに話しあいました。この樹林地には赤い紅葉がなくわずかにツタが紅くなるだけなので、花見や紅葉狩りを楽しみたいとの希望がでました。来月は、方形枠調査と看板等について決める予定です。(安部)

ちょうふ あちこち

いりまちよう
入間町



入間樹林でのお楽しみ会当日、入間地域センター前の農家では落ち葉だめにケヤキなどの落ち葉とぬか・水をまきながら作業をしていたので思わず取材させていただきました。

(安部宝根)



竹カゴが素敵です。



雑木林塾

12月9日、第4回目の塾は若葉町3丁目第1緑地で行いました。工事が終わったばかりの若葉町第3緑地と比べて、薄暗いうっそうとした森といった感じでしたが、皆でごみ拾いを行い、講師の小池先生の指示の下でシュロ抜きを終えた後には、道も開け明るい森に生まれ変わりました。少ない人数なのでできる範囲は限られていますが、皆あつという間にこつをつかみ、ずんずんシュロを抜く姿はまさに職人芸。女性塾生も夢中になって力強く抜いている姿にビックリしました。

今年度の雑木林塾は、例年になく少ない人数で開始しましたが、常に一人ひとりが主体的に活動に取り組めたのではないかと思います。残すところ3/1の全体会での活動発表を含め、後3回となりましたが、この雑木林塾をきっかけに一人ひとり何かを掴んで頂けたのではないかと思います。(環境政策課：小松)



調布の自然 クモ コクサグモ

冬も本番となり、寒さの厳しい季節になりました。

今回紹介するクモは、タナグモの一種であるコクサグモです。

本種はタナグモ科に属する体長1cm前後の小型のクモです。親グモの成熟期は秋の9~10月ですが、個体自体は年中見ることができます。

北海道から九州に至る都市郊外から山間部に至るまで広範囲

に分布し、調布市内でも生け垣や公園の樹木、庭木の樹間等で、ごく普通に見ることが出来る身近なクモの一種です。

本種の属するタナグモ科は漢字では「棚蜘蛛科」と書き、樹間に水平な棚状の網を作る(写真(下))ことに由来しています。早朝等、まだ露が降りている時に、この棚状の巣に細かい水滴がついた状態で太陽の光を浴びると、光を反射してとても美しく目立ちます。

クモ自体は写真(上)のように地味で、普段は棚状の巣の奥に隠れており、小型の昆虫が巣の上に落下すると、その震動を察知して、かなりのスピードで現れます。

ちなみに、本種によく似てひとまわり大きいクサグモというクモも調布市内で普通に見ることができますが、こちらは体や巣が大きいほか、頭胸部にある2対の黒い縦条が本種のような明るい放射状斑で区切られていない点で区別できます。(環境モニター 石川和宏)



◆カニ山の会

12月8日 参加者7名

東樹林地、北西角の通路傾斜部に以前確保していた丸太で階段を設置。その他フィールド内のヤブコウジ群生地に囲いも設置した。

【活動後の感想】

- ・左用の自分の鉋を買ったが、右利き用に比べ使いやすい、まだ未熟だが頑張りたい。
- ・カニ山の会では初めての階段作り作業ができ楽しかった。
- ・剪定の方法を教わった。剪定勉強会もやりましょう。
- ・作業中にいろんな意見を聞いて良かった。
- ・階段づくりには、皆さんの意見が参考になった。
- ・広葉樹の木が堅く、いつものように道具が使えなかったが、いい勉強になった。

田んぼの学校がキャンプをしており、作業後、豚汁をご馳走になった。カニ山の会でも1月はキャンプ場でお茶会をする予定です。(活動記録より)



◆環境モニター

12月9日 参加者7名

年間予定には無かったが自主活動として水生植物園から深大寺城址にかけて植物観察をした。

水生植物園内は紅葉も終わりに近づきアシも枯れていたが、カンスゲやヒガンバナの葉が元気。その他、ミツバや来春の草の芽も地表で青々としていた。

ハンノキには終わりかけた実と、すぐに咲きそうなたつぼみ(1月頃からと言われているが、暖地では11月に咲くこともあるらしい)がぶら下がり、幹には葉の落ちたナツツタのツルだけが赤くからまっていた。

以前の観察では記録されていないが、コウヤワラビの孢子葉と思われる枯れ残りが沢山あった。

城址では落ち葉が積もり、もっぱら樹木の観察。イイギリやゴンズイの実が美しい。イヌシデ・ムクノキ・エノキも黄葉に。(NK)



メンバー随時募集 ☆ 環境市民 活動カレンダー & おしらせ ☆

◆環境モニター

※市内の自然環境調べや「調布そぞろ歩き」のガイドを行っているグループです。1月、2月の活動はありません。※次回3月は多摩川河原の植物調べを行います。

◆カニ山の会

1/12 (土) 10:00~14:00
集合場所: 深大寺自然広場(野草園横)
内容: キャンプ場でお茶会・枯れ枝の整理や樹名板の準備など
※原則毎月第2土曜にカニ山東樹林の保全活動を行っています。活動に参加してみたい方は直接集合場所へ。
※会費500円+保険料500円(年間)

◆入間・樹林の会

1/20 (日) 9:30~12:00
集合場所: 入間地域センター
内容: 方形枠調査など
◆上記3グループとも、問合せは環境政策課: 042-481-7086へ

環境政策課の窓

2007年もあっという間に過ぎ去り、新年を迎えることとなりました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。皆さんにとって今年はどうなるのでしょうか?新年を迎え、私も今年一年の抱負を立てました。それはズバリ「危機感!」です。

毎月の自然だよりの原稿しかり、私もそうですが、たいいていの方は締め切り等に迫られてやっと本気になるものです。だからこそ今年一年は「危機感!」をテーマに仕事、プライベートに関わらず全てに危機感を持って取り組んでいきたいと思えます。

皆さんもご存知のとおり、今年からついに京都議定書が動き出します。日本は90年比でマイナス6パーセントのCO2削減が義務付けられていますが、現状はプラス8パーセント。かなり深刻な事態です。でも本当に深刻なのは地球の現状です。至る所で聞こえる地球の悲鳴を如何にして皆さまに身近な危機感として伝えるか、それが私の仕事だと思っています。温暖化まったなし、真剣勝負です。本年もどうぞよろしくお願いいたします。(環境政策課:小松)



ちょうふ あちこち 多摩川べり

調布市内を流れる多摩川べりには15年ほど前に作られたワンド(本流と繋がっている池)があります。流れのゆるやかな淀みに生息する魚やそれを狙う小鳥達の棲みかとなって、生物多様性に貢献してきました。人工的に造った当時は、かなりの規模を誇るものでしたが川の流れは日々に変化し、年々小さな場所になっていきました。ことに昨年秋の台風では、二ヶ領上河原堰などと共にすっかり姿が変化してしまい、現在、本流とのつながりが断たれてしまいました。(下の写真左側がワンド。右はジャリの溜まった本流)

伏流水が湧き出しているとはいえ、この先どんな自然環境の変化が待ち受けているのか、ちょっと心配な光景です。(K)



第54回懇談会運営会議

日時: 1/15 (火) 18:30~20:30
場所: たづくり 304 会議室
内容:
・今後の環境市民懇談会について
・3/1 実施の全体イベントについて
※どなたでも参加できます。資料の準備の都合上、会議に参加希望の方は事前に環境政策課へご連絡ください。

編集後記

1月~2月の雑木林は、ふだんは葉に隠れていた枝振りがかっきりと見えてくる。冬の青空に映える樹形を楽しむ散歩がおすすです。写真は城山の大きなエノキ。のびのびと枝を広げている。身近なお気に入りの樹木を選び年間を通して観察してみるとおもしろいですよ。

2008年の年頭にあたり、今後の取り組みについて考えてみた。調布の自然環境も地球温暖化の問題と無関係ではありえない。都市に住む調布の市民としても、何かを始めなければならないのは確かです。足元から、できることから、一緒に...今年もよろしくお願いいたします。<江刺益子>



「ちょうふ環境市民懇談会」は、調布の自然環境を市民・行政・事業者の協働で保全・改善・回復していくために設立されました。2001年から保全活動の交流・支援、人材育成、情報収集・発信、提言などの活動をしています。ぜひご参加ください。

ちょうふ環境市民懇談会

連絡先: 調布市環境政策課 tel 042-481-7086
E-mail: kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp
調布市ホームページでカラー版がご覧いただけます
→市公式HP→くらし→環境・緑化→ちょうふの自然だより